つながる富山、共創の未来

~エリアリノベーションで描く新たな100年~

提言

令和7年3月 富山経済同友会 地域創生委員会

目次

Ι	現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1)富山県全体の課題(2)県都中心市街地の課題(3)変化の兆し(4)現状と課題のまとめ	
п	調査·検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
Ш	提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
IV	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
V	委員名簿·····	22

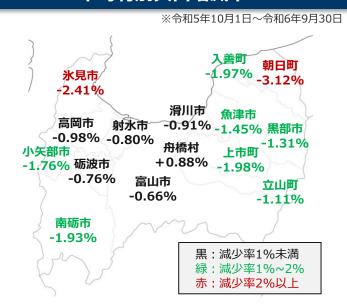
I現状と課題II調査・検討III提言IVおわりにV委員名簿

(1) 富山県全体の課題

- ・ 県全体として人口減少と少子高齢化が進行。令和6年4月、県人口は遂に100万人を切った。
- ・ 社会動態をみると、特に女性や若者世代の県外転出が際立っている。さらに、市町村別でみると、富山市からの距離に比例して減少が顕著であるものの、富山市においてもマイナス(微減)を余儀なくされている。
- ・ 今後も少子化等を理由とした県内大学の淘汰(高岡法科大学が学生募集停止を決定)や全国的なキャンパスの都心回帰(県内キャンパスは郊外立地が多い)もあり、若者世代の県外進学に拍車がかかるおそれ。
- ・また、令和6年元日に発生した能登半島地震により、県内の広範囲で液状化等の被害が発生。災害に対するまちの脆弱性が浮き彫りになった。GX、DXなど製造業や観光業等に影響を与える社会課題も生じている。

富山県年齢別の社会動態 ※令和5年10月1日~令和6年9月30日 +200+96 +82 +71+100+48 +21+10+0Δ7 $\Delta 21$ Δ9 • Δ19 ۸36 Δ100 Δ53 Δ56 女性(総数)の Δ146[♦] Δ179 Δ200 Δ209 ■男性 差引増減 県外からの転入 県外への転出 Δ300 ■女性 男性 男性 女性 計 男性 女性 計 女性 ◆ 男女計 Λ400 数 11,283 18,961 11,080 8,281 19,363 +203 Δ400 7,678 Δ603 若者世代(15~34歳)の (再掲) 7,016 4,909 11,925 5,392 Δ60 Δ483 県外転出超過 Δ543人 若者世代

市町村別人口増減率



出所:富山県 とやま統計ワールド ホームページ (https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/jinko/index.html) 「令和6年度富山県人口移動調査結果概要! (令和6年12月富山県公表) に基づき富山経済同友会作成

(2) 県都中心市街地の課題

- ・富山のまちの代表格である県都に着目すると、駅周辺と商店街エリアでは特徴あるまちづくりを展開しているが、その間の県庁周辺エリアによって分断が発生している。県庁周辺エリアの活性化が甚だ不十分である。
- ・神通川「旧河道」(馳越線工事によって生まれた廃川地※)に多数の県有地が存在するが、長らくの間、 インパクトある公共投資はなされておらず、高度経済成長期に整備された既存公共施設の老朽化が目立つ。

※本提言では「廃川地」を「旧河道」に統一する



出所:富山市

- 富山駅周辺は、都市開発が進むとともに、駅前広場等を活用したイベントが定期的に開催されている。
- トヤマチ∞ミライなど、まちづくりの主体が立ち上がっている。



出所:富山県 県庁周辺エリアアイデアコンペ ホームページ (https://toyama-idea.jp/)

- ・ 県庁周辺は官庁街であり、経済活動が少ない。 休日、日中の人流が少なく、 駅前と商店街を分断している。 緑豊かだが、 やや鬱蒼として暗い印象を与える。
- ・県庁周辺にエリアマネジメント組織はなく、駅周辺や商店街で個々に活動するエリアマネジメント組織の十分な連携もとられていない。



出所:富山市

- ・商店街エリアでは、住宅を含む開発がなされ人口が増加している。また、個性的な店舗が集積し休日、日中の人流が相当程度ある。
- 商店街の活性化に向けたまちづくりが行われている。



出所:国土地理院ウェブサイト(https://maps.gsi.go.jp/vector/)「地理院地図Vectorデータ」をもとに富山経済同友会加工・作

- ・近代前(江戸時代)は「城-城下町」の都市構造であった。明治34~36(1901~1903)年の「馳越線工事」によって旧河道が誕生し、多数の公共施設の整備による都市機能の充実が図られた。
- ・その後、戦災復興都市計画により、駅と商店街を結ぶ南北軸が整備された。

旧河道活用に向けた都市計画事業概要



「富山都市計画事業概要」(富山市郷土博物館所蔵)

旧河道が埋め立てられ建物が建ち始めている様子



「神通川廃川地」(富山市郷土博物館所蔵)

出所:富山市郷土博物館

(3)変化の兆し

- ここに来て変化の兆しもある。旧NHK富山放送会館の跡地取得を契機に、富山県は県庁周辺エリア活性化の検討に着手。産学官の対話の場として「富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会」(後述)が設置された。
- ・ また、再選を果たした新田知事の公約でも、県庁周辺について、「エリア全体のマスタープランを作成して、県 都に通年で魅力が感じられるウォーカブルな共生都市を創出する」ことを謳っている。
- ・ 富山市は都市計画マスタープランを改訂中。スポーツによるまちづくりや市街地再開発等でも動きがみられる。



出所: 富山県 県庁周辺エリアアイデアコンペ ホームページ (https://tovama-idea.jp/)



スポーツによるまちづくり くサッカー専用スタジアム(まちなかスタジアム)構想> 建設候補地 富山駅東エリア 収容人数 1万~1万5千人 川途・機能 ・サッカー専用スタジアム・レジャー・ショッピング施設、ホテル、教育機関等が入る複合施設を想定 完成 2030年代前半の完成を目指す

出所: (公社) 富山県サッカー協会

富山市街地再開発

<富山市中央通りD北地区第一種市街地再開発事業>



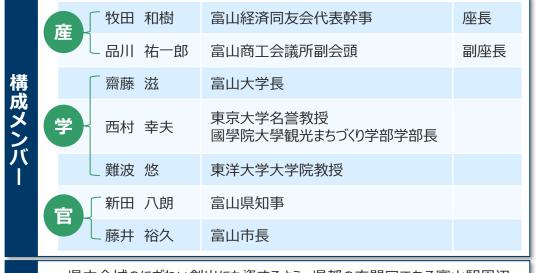
12.1-120-C	130070 3-207
所在地	富山市中央通り一丁目地内
敷地面積	約6,370㎡
階数	高層棟·24階、低層棟·7階
用途·機能	共同住宅、商業、業務、アイススケート場、 駐車場他
着工	2024年10月
完成	2027年3月グランドオープン(予定)

出所: 富山市中央通DD北地区市街地再開発組合

- ・ 令和5年10月、県庁周辺エリアの魅力や価値を向上させ、県都の格を高めるための未来ビジョンを取りまとめることを目的に、富山経済同友会の呼びかけにより、県、市、大学、経済界による対話の場として設置。
- ・歴史・水辺・緑の資源を活かせていない等の課題の共有や、地域住民が集う憩いの広場の整備や国登録有 形文化財である県庁本庁舎の賑わい複合化(博物館等)等、活性化に向けた闊達な議論が交わされた。
- ・ これまで、エリアの3つの「ありたい姿」を掲示、置県150年となる令和15年、さらに令和22年を目標年次に 設定した。これに基づき、富山県は県庁周辺県有地等の有効活用に向けた基本構想を策定中である。

県庁周辺エ

のありたい



県内全域のにぎわい創出にも資するよう、県都の玄関口である富山駅周辺地区と中心商業地区(西町・総曲輪通り・中央通り商店街等)との中間に位置する県庁周辺エリアの魅力や価値を向上させ、県都の格を高めるため、10年後20年後のビジョンを取りまとめることを目的とする。

設立趣旨

(富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会規約より引用)

出所:富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会

歴史・水辺・緑を活かしてま ちの中心における憩いと愉 県庁周辺 エリア /一イングを向上させるエ まちなかの連続性・回遊性 - 高めて、まちをシームレ スにつなぐとともに、周辺 エリア 街区に賑わいの好循環をも **第三周辺街区** たらすエリア 公有地を舞台に県内外の多 産学官民連携や人々の交流 まちの核として求心力と発 信力を生むエリア

出所:富山県「県庁周辺エリア未来ビジョン取りまとめに向けた論点整理」

(4) 現状と課題のまとめ

富山県の課題

- 富山県の人口が遂に100万人を切った。少子化もさること ながら、女性や若年層の転出が顕著である。
- 富山市からの距離に比例して減少が顕著であるものの、富山市においてもマイナス(微減)。県全体の広域的な活力底上げが必要である。
- 自然災害に対するまちの脆弱性に加え、GX、DXなど製造業や観光業等に影響を与える社会課題が発生している。

県都中心市街地の課題

- 富山駅前と商店街エリアは特徴あるまちづくりを展開しているが、その間に位置する県庁周辺エリアによって分断が発生している。
- 馳越線工事により生まれた神通川旧河道上に多数存在する県有地の有効活用が進んでいない。公共施設の老朽化が著しい。
- 全体としてエリアのポテンシャルを活かせていない。

変化の兆し

- 富山県自ら県庁周辺エリアの再生に向けた検討を開始。「富山県成長戦略」や「寿司といえば、富山」など特徴のあるビジョナリーな政策や事業にも取り組み始めている。
- 経済界では、市街地再開発事業やスポーツを核としたまちづくりへの取組みが加速している。また、富山市は都市計画マスタープランを改訂中である。
- 県、市、富山大学、経済界による対話の場が設置され、「県庁周辺エリア未来ビジョン」の取りまとめに向けた議論がなされている。
- ・ 産学官民がそれぞれ危機感を持ち、県都の再生に向けて取組みを始めている。県の課題を踏まえる と、課題解決に向けた取組みは待ったなしであり、いまこの時を逃すべきではない。
- ・ 今後10年程度が富山にとって極めて重要である。これから100年先を見据え、産学官民が一致団 結してまちづくりに取り組むべき。

I現状と課題II調査・検討III提言IVおわりにV委員名簿

(5)事例調査~広島市

- ・ 【概要】広島市では、旧市民球場跡地を活用した「ひろしまゲートパーク」や「紙屋町周辺」等、都心エリアの 再開発が進行している。また、産学官民の連携を図る、まちづくりのプラットフォームが有効に機能している。
- ・【示唆】産学官の意思統一と、その内容の見える化が必要。また、学生や住民も参加できる組織の構築やプロジェクトの立ち上げが求められる。賑わいや集客においては、富山の地域資源を活かしたブランディング、ウォーカブルな都市空間の創出、デジタルプラットフォームの活用などが重要。

事業(ハード・ソフト)

- 総合的かつ広範囲の都市中心部再生計画を持っている。
- 賑わい創出のための都市デザインがなされている。まちの経営という視点がある。
- スタジアムは観光客誘致・交流人口拡大につながる施策が練られている。
- 交通網や建物整備などマクロの取組みと、活動や仕掛けなどの ミクロの取組みの両輪となっている。





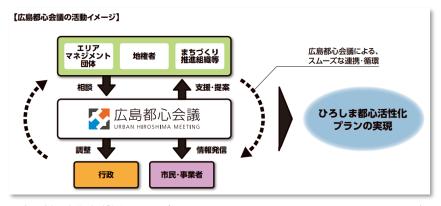


広島市内の様子

出所:富山経済同友会(令和5年10月視察時撮影)

体制(マネジメント)

- 「広島都心会議」の組成。エリアマネジメント組織と行政の調整を図る、まちづくりのプラットフォームとなっている。
- さらに、広島経済同友会まちづくり委員会が、都心部と中山間 地をつなぐ視点で活動している。
- 「オール広島」で産学官民が連携し、未来ビジョンを共有して取り組んでいる。民間企業(地元電鉄会社)のリーダーシップが発揮されている。



出所:広島都心会議広報誌「都心力」vol.00 (https://uhm.biz/wp-content/uploads/2024/05/UHM_vol_00.pdf)

(5)事例調査~松山市

- ・ 【概要】松山市では、「歩いて暮らせるまち」の実現のため、歩行者空間や自転車インフラの整備が充実している。また、公民学連携のまちづくり組織がまちづくりを先導していることが特徴的である。
- ・【示唆】産学官が連携した、統合的なまちづくりプラットフォームの確立が必要。当該組織が司令塔となり、計画的・統合的に各種施策に取り組んでいくべき。若者が集う空間や、まちなかに人が集まる"からくり"が必要。ウォーカブルで賑わいのあるまちなかの構築という課題は富山のまちでも取り組むべき。

事業(ハード・ソフト)

- 「歩いて暮らせるまち松山」を掲げ、歩道環境を整備。
- 自転車レーン整備、公共交通のアクセス性向上などモビリティの 取組みが充実。
- 地域社会の活性化のため、イベントスペースとしての通りの空間 整備や地域イベントのサポートを行う。
- 観光資源と松山の文化を活かした取組みがなされている。







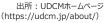


松山市内の様子 出所:富山経済同友会(令和5年10月視察時撮影)

体制(マネジメント)

- 公民学連携のまちづくり組織である、松山アーバンデザインセンター(UDCM)がまちづくりを先導している。
- 都市デザイン等の専門家により構成されており、大学の関与がある。
- 地域住民とともに、「創る(空間デザイン・マネジメント)」「交わる(賑わいの創出)」「学ぶ(まちづくりの担い手育成)」 「知る(情報発信)」の4つに取り組んでいる。







UDCMが運営するフリースペース「もぶるラウンジ」 出所:富山経済同友会(視察時撮影)

- ・ 【概要】大阪市では、民間企業主導により、イノベーションを生み出すための共創施設が運営され、社会課題 の解決や地域のグローカルな発展に貢献している。
- ・ 【示唆】様々な主体が連携して新たな取組みにチャレンジするためには、その受け皿となる「場」が必要。また、 場の整備・運営においては官民連携が必須である。

事業(ハード・ソフト)

- NTT西日本が運営する オープンイノベーション施 設「QUINTBRIDGE」 では、企業、スタートアップ、学生、自治体などが 交流し共創している。 ワークショップやピッチなど のソフト面も充実。
- 「LINKSPARK」では、コンサルタントやデータサイエンティストが常駐し、ビジネスアイディアの創出から事業化までをワンストップでサポートしている。



出所: 富山経済同友会(令和6年8月視察時撮影)



出所:富山経済同友会(令和6年8月視察時撮影)

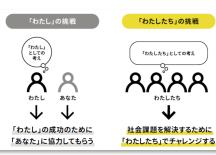
体制(マネジメント)

- 「QUINTBRIDGE」では、様々な主体が一堂に集まり、交流しながら新たなビジネスやサービスを創出しようと取り組んでいる。
- 場を提供するNTT西日本もプレーヤーの一人。中心を「共創」に置く運営がなされている。
- 民間提起のまちづくり、地域課題解決の取組みと言える。



「わたし」の挑戦を、
「わたしたち」の挑戦へ。
Self-as-We

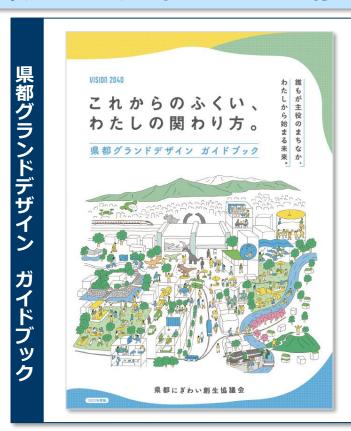
QUINTBRIDGEが大切にする、考え方です。



出所:QUINTBRIDGEホームページ「QUINTBRIDGEご案内資料」 (https://www.quintbridge.jp/download/file/QUINTBRIDGE_information.pdf)

(5) 事例調査~福井県・福井市

- ・ 【概要】福井商工会議所の提言を受けて設立された、商工会議所、福井県、福井市トップらによる「県都にぎわい創生協議会」が令和4年10月、"誰もが主役に!楽しさあふれる県都"を掲げる「県都グランドデザイン」を策定。その後の増資により商工会議所が筆頭株主を務めるまちづくり会社が、具体の事業を進めている。
- ・【示唆】県と市の官官連携が実現している稀有な例として注目できる。官官連携 + 官民連携のシナジーにより、地域が一丸となってビジョンを共有しまちづくりに取り組むことが重要である。





出所: 県都グランドデザインガイドブック (https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/sokou/granddesign_d/fil/GrandDesignGuidebook.pdf)

(6) 事例調査の学び

- 総合的かつ広域的な都市への視点を持つとともに、その中の特定のエリアに関する具体的なビジョンを構築・ 見える化し、まちづくりの関係者と共有、意思統一を図ることが重要である。
- ビジョンや計画に基づき、具体的な事業を立ち上げ、実現することが肝要である。
- ・ 産学官民が連携してまちづくりに取り組むとともに、県と市の強固な協力体制の構築が必要不可欠である。

広域的な都市 への視点



上空から見た富山県高岡市 出所: 富山経済同友会(事務局撮影)

特定のエリアへの視点



富山県庁周辺エリア 出所:国土地理院ウェブサイト(https://maps.gsi.go.jp/vector/) 「地理院地図Vectorデータ」をもとに富山経済同友会加工・作成

具体事業の 創出



旧NHK富山放送会館跡地 出所: 富山県 県庁周辺エリアアイデアコンペ ホームページ (https://toyama-idea.jp/)

産学官民および 官官の連携



QUINTBRIDGE(NTT西日本) 出所:富山経済同友会(視察時撮影)

- ・ 県都のまちづくりを考える上では、前述の通り、富山の都市が近代化する過程で生まれた旧河道にある多数 の県有地が注目される。これらは公益性と経済性を兼ね備えた都市整備の種地となり得る。
- ・ さらに県全域のまちづくりを考える上では、富山経済同友会が過去にも提言してきた通り、大局的見地に立ち、「鉄軌道王国とやま」としてのポテンシャルを最大限に活かすべきであろう。

県全域の視点:鉄軌道王国とやま

- 富山県は県全域に様々な鉄軌道が張り巡らされている。県全域のまちづくりを統一的な視点で捉える際、公共交通網である鉄軌道は注目に値する。
- 令和6年2月、城端線・氷見線に関し、事業主体をJR西から県の第三セクターに移管する再構築計画が、国土交通省に認定された。今後の利便性、持続性の向上が期待されるところ。



出所:鉄軌道王国とやまポータルサイト(https://tetsukidou-toyama.com/info/)

鉄軌道のまちづくりに関する富山経済同友会提言

『持続可能なふるさと富山へ』より引用

- 「将来も住み続けられるまち、住み続けたいまち」をめざす
- そのために、①分散する拠点を結びつけ"拠点の複合化"と魅力付けを 行い、②拠点間を結ぶ交通を充実させる("鉄軌道王国とやま"の 交通基盤も活用)

(平成30年4月:環境問題委員会)

『元気な富山の未来を描く』より引用

- 人口減少時代における地域創生戦略として、富山ならではの定住人口・交流人口の拡大方策やそのベースとなる公共交通の将来像について提案
- 具体的には、①富山の資源を活用した魅力ある産業の創生、②都市間交通等の整備や外国人観光客の誘致の推進、③鉄軌道の利便性向上など県内公共交通の充実

(令和元年4月:地域創生委員会)

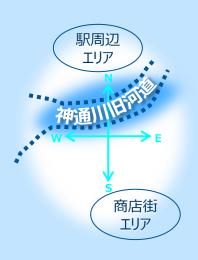
出所:富山経済同友同友会 提言書(https://www.doyukai.org/proposal/)

I現状と課題II調査・検討III提言IVおわりにV委員名簿

提言:エリアリノベーションの実装

提言① 旧河道のエリアリノベーション

- 約120年前、神通川の馳越線工事により、県都のまちに東西軸を通す旧河道が生まれ、公共的な都市機能が整備された。その後、戦災復興都市計画による道路整備、さらに2000年代のLRT整備等により、まちに強固な南北軸が生まれた。
- 旧河道エリアは長い間、十分な再投資が行われてこなかった。エリアに多数存在する県有地は有効活用が進んでおらず、公共施設は老朽化し、富山駅周辺エリアと商店街エリアの賑わいを分断している。
- これからの県都まちづくりでは、かつての神通川旧河道エリア(東西軸)を百数十年ぶりにリノベーションすることにより、再び県都に都市レベルでプラスのインパクトを与えるべきである。現代および将来を見据えた機能・役割や魅力を散りばめることで、これから100年先を見据えた都市づくりの核となるであろう。



提言② 暮らし・憩い・楽しみ・学び

- 旧河道エリアのリノベーションは、これから100年先を見据え、「憩い」と「楽しみ」、そして「学び」の空間や場づくりを主たる目的とするべきである。これらは県民の豊かな暮らしをつくるとともに、来訪者に富山の魅力を体感させるものとなる。
- 憩い、楽しみ、学び、そしてそれが形作る豊かな暮らしが 人を内外から呼び込み、そこから生まれる定住と交流が 更なる人と投資の呼び込みにつながる、そのような好循 環を生み出すことが重要である。
- そのために求められる機能・役割として、ウォーカブル with公共交通、まちなかスタジアム、まちなかキャンパ ス・イノベーション共創施設、グリーンインフラ、県庁本 庁舎の賑わい複合化、文教地区整備などを優先して 検討すべきである。

提言:エリアマネジメントの促進

提言③ 産学官民による持続的な エリアマネジメント

- ・ 産学官民がビジョンを共有して、共にまちづくりに取り組むべきである。全ての主体が経済性と公益性の両立を 志向し、真に持続的な「まちの運営と経営」に挑戦する ことが求められる。
- 旧河道エリアでは、行政におけるまちづくりの主たる担い手である富山市と、エリア最大のランドオーナー(地主)である富山県の良好な協力関係の構築が待ったなしであり、「県市合同チーム」の立ち上げ等、しかるべき組織的対応が求められる。

<県庁周辺エリア>

ビジョン実現に向けて実働する エリアマネジメント組織 <旧河道エリア>

エリアリノベーションを強力に推進する 「県市合同チーム」

<県全域レベル>

エリアマネジメント組織間の"連携・調整役"を担うプラットフォーム組織

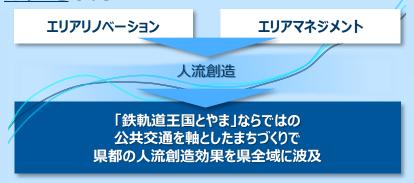
提言④ とやまを愛するプレイヤーを育てる事業とプロセス

- 県全域および県都において、<u>まちづくりを主体的に担う</u>プレイヤーを増やし育てることが不可欠である。そのためには、スモールスタートで小規模な事業を同時多発的に起こし、それを大規模な事業につなげていく戦略的なプロセスの設計が必要である。
- 各リノベーション事業は、民間主導の「公民連携」を基本とする。また、行政と民間企業のみならず、大学、若者、県民、地域住民など多様な主体が関われるようにするべきである。さらに、県内に閉じずに県外・国外に開かれたパートナーシップを構築することで、富山に関わる人々の中に"とやま愛"を醸成することにつなげたい。
- ・ 地権者、エリアマネジメントの主体、食・体験・宿泊などのコンテンツ&エンタメ提供者、それを利用する県民や来訪者など、多様な主体が"つながり"、価値を"共に創り"出し高めあう、人流創造の生態系(エコシステム)をつくるべきである。
 - ●小規模事業を同時多発的に創出 ●民間主導の「公民連携」を基本
 - ●若者・地域住民など多様な主体の ●県外・国外に開かれたパートナー 参画を促進 シップを構築

提言:県都から県全域への展開

提言⑤ 全県的な コンパクト+ネットワーク戦略

- ・ 富山市から離れた地域ほど人口減少が著しい。我々は、 県全体の広域的な活力底上げに向けて、**県都のエリア** リノベーションとエリアマネジメントによる人流創造効果 を、**県全域に波及**させなければならない。
- そこで、「鉄軌道王国とやま」ならではの、公共交通を軸 としたまちづくりに着目し、これを全県的に展開することで、 県民の生活利便性向上、国内外の観光客の誘客、地 域経済の活性化等につなげていくべきである。
- 富山県は各市町村とワンチームとなって、全県的な「コンパクト+ネットワーク戦略」を推し進めることが期待される。これに対し、地元経済界や大学等は全面的に協力すべきである。











Microsoft Copilotが描くイメージ 出所: Microsoft Copilot (https://copilot.microsoft.com/) 富山経済同友会にてCopilotを使用して生成 I現状と課題II調査・検討III提言IVおわりにV委員名簿

エリアリノベーションで描く新たな100年(1/2)

高校時代、一刻も早く富山から出たくて仕方がなかった。キラキラした都会への強烈な憧れ。地方都市の閉塞感からの逃避。都会にしかないものが沢山あった。今よりもずっと遠かった。1980年代の話である。

時が経ち、北陸新幹線が開業し、インターネットがさらに普及した。かつての閉塞感はなくなったように思うが、しかし現在も、若者世代の転出超過は富山県の深刻な課題だ。県内のそこかしこで地域創生の取組みが行われている。優良な企業も多くあり、就職先に困る状況ではない。しかし、それらも若者を引き留めるだけの魅力になっていない。社会インフラや産業はそれなりに充足していて、地方都市のなかでは恵まれているし、頑張っている。だが、いまいちイケてない。何が足りないのか?当委員会での話し合いのなかで、そこが重要なテーマとなった。

県内の大学のキャンパスはいずれも街の中心部から離れた郊外にある。 県外からやってくる学生も多いが、やってきてすぐに田舎の郊外で多くの時間を過ごすことになる。 私がかつて東京に求めたキラキラを富山に求めてはいないだろうが、 皆新しいキャンパスライフにワクワクする期待感をもっているだろう。 が、しかし…である。

例えば1、2年の一般教養課程のキャンパスがまちなかにあったらどうだろうか。そしてそれが県内全ての大学共用のシェアキャンパスであったなら。その近くには産学官民が連携した共創の場として、QUINTBRIDGEのようなオープンイノベーション施設。授業が終わったら、研究成果をもとにピッチを行い、企業と交流。あるいは、まちなかスタジアムでスポーツ観戦をしたり、近くのお店で食事を楽しんだり。そして一日の余韻を少し引きずりながらLRTで家に帰る。そんなライフスタイルがあれば、不安いっぱいで未知の富山に来た学生さんも、卒業するころには富山大好き人間になっているのではないだろうか。

このようなアイディアを実現するために新たな箱物を作る必要は必ずしもない。例えば、老朽化した県庁舎を今後も事務所として使っていくには限界がある。機能を見直して他の用途で利用することを考えてみてはどうか。既存のビルの空きスペースに多少のリノベーションを加えることで、それらの場所は十分確保できるのではないだろうか。既存の社会資本を利活用した、富山型再開発を模索したい。

エリアリノベーションで描く新たな100年(2/2)

当初、県庁周辺の再開発を考えるところからスタートしたが、馳越線工事によって生まれた『旧河道』が富山駅周辺と西町・総曲輪などの中心市街地を分断していることに気づいた。このエリアをリノベーションすることで分断は解消され、南北を接続させてきたコンパクトシティに東西の広がりを生み出すことになるはずである。県の所有地が多いこのエリアの再開発には、県と市の官官連携が不可欠だ。そこに経済界、若者世代を加えた、産学官民が連携した、調整力と実行力を兼ね備えたエリアマネジメント組織を早急に立ち上げるべきというのが、今回の提言の最も重要な部分である。

前段で"いまいちイケてない"と自虐的に言ったが、富山のポテンシャルの高さはこれまでの地域創生委員会の調査にある通り疑いはない。2025年1月7日、米紙ニューヨーク・タイムズが「2025年に行くべき52カ所」を発表し、県都である富山市が選ばれた。あと少しの『連携』『エンターテインメント性』『若者世代を惹きつける仕掛け』によって、富山はより一層魅力あるまちになるはずである。「ワンチームとやま」連携推進本部により、県内の広域連携も強化されつつある。今が絶好のチャンスではないだろうか。富山県のこれからの100年が光り輝く都市であることを願い提言をさせていただいた。

最後に、様々な気付きを与えてくれた各視察先にお礼を申し上げたい。特に、強力なリーダーシップで広島都心会議の会長として現在も各種団体の調整に奔走しておられる、広島経済同友会の椋田まちづくり委員長には、実行力のある経済同友会の姿を学ばせていただいた。ありがとうございました。

以上

地域創生委員会 委員長 池田 治郎

I現状と課題II調査・検討III提言IVおわりにV委員名簿

V 委員名簿

地域創生委員会 委員(1/4)

No.	委員会役職	氏 名	会 社 名	会 社 役 職	No.	委員会役職	氏 名	会 社 名	会 社 役 職
1	委員長	池田 治郎	富山いすゞ自動車(株)	代表取締役社長	26		大井山 行雄	大松青果(株)	取締役会長
2	副委員長	浅野 雅史	(株)バロン	代表取締役	27		大澤 恒寛	フレンドリー・エレバテック(株)	代表取締役
3	副委員長	石倉 央	(株)FP不動産センター	代表取締役	28		大橋 聡司	大高建設(株)	代表取締役社長
4	副委員長	流石 稔	損害保険ジャパン(株)	富山支店長	29		雄谷 秀次	(株)ドコモCS北陸	富山支店長
5	副委員長	上願 宏幸	(株)ホクタテ	代表取締役	30		岡部 雅弘	T.トラスト(株)	代表取締役
6	副委員長	東澤 善樹	とうざわ印刷工芸(株)	代表取締役社長	31		岡本 肇	(株)オカモトハツリ	代表取締役
7	副委員長	橋本 淳	サクラパックス(株)	代表取締役	32		荻布 原駆郎	荻布倉庫(株)	代表取締役
8	副委員長	山崎 良人	(株)JTB	富山支店長	33		奥原 恒治	(株)電通西日本 北陸支社 富山オフィス	オフィス長
9		青山 和也	(株)エクシーズ	代表取締役	34		桶屋 泰三	桶屋税理士事務所	所長
10		明石 あおい	(株)ワールドリー・デザイン	代表取締役	35		押田 洋治	(株)押田建築設計事務所	会長
11		赤丸 準一	大成ロテック(株) 北信越支社	顧問	36		小竹 秀子	オダケホーム(株)	取締役社長
12		安西 忠信	前田建設工業(株)	執行役員北陸支店長	37		開上 真樹	(株)北陸博報堂	代表取締役
13		飯倉 清博	(株)やぶうち商会	取締役社長	38		梶谷 英治	ほくほくTT証券(株)	代表取締役社長
14		石坂 兼人	石坂建設(株)	取締役社長	39		金尾 雅行	富山港湾運送(株)	代表取締役社長
15		石動 勇	石動コーキング(株)	代表取締役	40		川合 紀子	(有)ステップアップ	代表取締役
16		伊勢 徹	(株)ライフサービス	代表取締役	41		川上 勝大	大和ハウス工業(株)	富山支店長
17		市森 友明	NiX JAPAN(株)	代表取締役社長	42		川口 義春	(株)サンセイ	会長
18		稲垣 貴彦	GRN(株)	常務取締役	43		川野 寛正	(株)東芝	北陸支社長
19		稲垣 晴彦	北陸コカ・コーラボトリング(株)	代表取締役会長	44		岸洋一郎	大塚製薬(株)	富山出張所 所長
20		井元 謙治	(株)日産サティオ富山	取締役社長	45		北川 清秀	医療法人財団とやま医療健康センター とやまPET画像診断センター	理事長
21		今井 壽子	(有)ゼフィール	相談役	46		北村 耕作	キタムラ機械(株)	代表取締役
22		上垣 雅裕	丸紅(株)	北陸支店長	47		木下 実	木下法律事務所	弁護士
23		上野 等	(株)ケーブルテレビ富山	代表取締役社長	48		木邨 俊哉	三井住友ファイナンス&リース(株)	富山営業部長
24		碓井 順	明治安田生命保険(相)	富山支社長	49		木村 雅彦	(株)北陸日立	代表取締役社長
25		梅田 ひろ美	(株)ユニゾーン	代表取締役会長	50		金田 俊樹	(有)きんた	代表取締役

V 委員名簿

地域創生委員会 委員 (2/4)

No.	委員会役職 氏 名	会 社 名	会 社 役 職	No.	委員会役職	氏 名	会 社 名	会 社 役 職
51	窪田 昌司	(株)エムエスサポート	代表取締役	76		鈴木 真	(株)鈴木亭	代表取締役社長
52	黒川 央	(株)北陸銀行	常務執行役員 富山地区事業部本部長	77		関口 雄介	(株)関口組	代表取締役
53	黒田 祥摂	(有)黒田建設	代表取締役	78		関戸 正浩	住友生命保険(相)	富山支社長
54	後藤 新平	JFEエンジニアリング(株)	北陸支店長	79		相馬 淳一	トーワドローンサービス(株)	代表取締役
55	後藤 敏行	(株)西松ホテルマネジメント	代表取締役	80		大門 督幸	伏木海陸運送(株)	取締役社長
56	小山 輝行	(株)みずほ銀行	富山支店長	81		高木 奈津美	ファミーユ(株)	代表取締役
57	酒井 郁生	(株)シー・エー・ピー	代表取締役	82		高田 一徳	寿電設(株)	代表取締役
58	酒井 久仁:	大 北陸酒販(株)	専務取締役	83		髙田 千明	髙田食糧(株)	取締役社長
59	酒井 健吉	酒井建設(株)	取締役社長	84		髙橋 英司	北陸電話工事(株)	富山支店長
60	酒井 智俊	サカヰ産業(株)	代表取締役社長	85		高平 公輔	新栄建設(株)	代表取締役
61	坂下 明義	(株)アルト	代表取締役	86		武内 孝憲	(株)牛島屋	代表取締役
62	佐藤 幸博	(株)柿里	代表取締役	87		竹内 要一	北陸電力(株)	理事 富山支店長
63	澤田 憲秀	(有)三広	代表取締役	88		多田 愼一	第一物産(株)	相談役
64	塩井 仁司	(有)道正昆布	代表取締役	89		田中 悟史	(株)日本政策投資銀行	富山事務所長
65	塩井 保彦	(株)広貫堂	取締役副会長	90		田中 均	(株)ニチネツ	取締役会長
66	志鷹 新樹	丸新志鷹建設(株)	取締役社長	91		棚田 一也	北陸電力送配電(株)	代表取締役社長
67	嶋 龍仁	(有)ジェイシーバール	取締役社長	92		田村 元宏	(株)タムラ設計.	代表取締役
68	島田 好美	(株)島田商店	会長	93		中条 充康	(学)北日本自動車学校	理事長
69	島谷 浩司	北日本放送(株)	代表取締役社長	94		永岩 聡	高岡信用金庫	理事長
70	下村 貴之	東京海上日動火災保険(株)	富山支店長	95		中川 雅弘	(株)KEC	代表取締役
71	種昻 哲	(株)スタジオシュワリ	代表取締役	96		長崎 衛	富山糧穀(株)	代表取締役
72	白倉 三喜	富山駅前開発(株)	代表取締役	97		中島 奈々	(株)フォー・ユー	取締役会長
73	新庄 一洋	富山地方鉄道(株)	専務取締役	98		中勝 篤司	(株)司構造計画	代表取締役
74	新谷 智弘	日本海コンクリート工業(株)	代表取締役社長	99		永田 崇	大和リース(株)	富山支店長
75	杉野 岳	(株)スギノマシン	代表取締役副社長	100		中村 正治	サニーライブ ホールディングス(株)	取締役社長

V 委員名簿

地域創生委員会 委員 (3/4)

No.	委員会役職	氏 名	会 社 名	会 社 役 職	No.	委員会役職	氏 名	会 社 名	会 社 役 職
101		中本 和之	大成建設(株)	富山営業所長	126		益田 貴司	ブリーズベイオペレーション3号(株) (ホテルグランテラス富山)	執行役
102		西田 美樹	(株)PCO	代表取締役	127		増山 一雄	増山電業(株)	代表取締役
103		野住 武弘	(株)アイザック・ユー	代表取締役社長	128		松下 光信	(株)松下工業	代表取締役
104		野田 強	第一生命保険(株)	富山支社長	129		松嶋 重信	(株)司ファシリティーズ	専務取締役
105		長谷川 達雄	中央薬品(株)	代表取締役	130		松田 光司	北陸電力(株)	代表取締役社長
106		花田 将司	いなほ化工(株)	代表取締役	131		松波 潤哉	(株)ビーマックス	取締役社長
107		羽根 由	(株)生活ネット研究所	代表取締役	132		松原 悠大	松原建設(株)	代表取締役
108		濱田 秀一郎	セコム北陸(株)	富山統轄支社長	133		松原 吉隆	大同産業(株)	取締役社長
109		林 清滋	(株)ユニバーサルパッケージ	代表取締役	134		見角 要	立山黒部貫光(株)	取締役社長
110		林 泰三	(株)堀江商会	代表取締役社長	135		水田 整	富山ターミナルビル(株)	取締役社長
111		林 政義	北陸電力(株)	常務執行役員	136		水原 清晴	富士電機(株)	北陸支社長
112		林 泰史	(株)オーフエン機器	代表取締役	137		南 直樹	北銀リース(株)	代表取締役
113		林 良孝	(株)日本旅行TiS富山支店	支店長	138		源 和之	(株)MINAMOTO GROUP	代表取締役
114		針田 正尚	クリーン産業(株)	代表取締役	139		三原 克久	三菱商事(株)	北陸支店長
115		東出 悦子	(株)アイペック	代表取締役	140		宮口 義史	菱機工業(株)	富山支店長
116		東山 真也	西日本電信電話(株)	富山支店長	141		村尾 英彦	(株)村尾地研	代表取締役社長
117		平田 純一	日本海ガス絆ホールディングス(株)	代表取締役副社長	142		村上 一浩	(株)ほくつう	執行役員富山支社長
118		平能 正三	三協立山(株)	取締役社長	143		村上 宏康	(株)ワプラス	代表取締役
119		福崎 秀樹	(株)フクール	代表取締役	144		村本 幸雄	ムラモトユニフォーム(株)	代表取締役
120		藤井 久丈	医療法人社団藤聖会	理事長	145		森 幹男	森商事(株)	代表取締役
121		藤澤 知行	日本銀行富山事務所	事務所長	146		森田 昌孝	(株)モリタ	取締役会長
122		藤村 洋志	(株)商工組合中央金庫	富山支店長 兼 高岡支店長	147		森藤 正浩	正栄産業(株)	代表取締役
123		藤原 宜紀	(株)藤原重機	代表取締役	148		柳川 三千代	(株)モーヴ	代表取締役
124		前田 展宏	富山フューチャー開発(株)	常務取締役	149		山岡 昭一	三菱重工業(株)	北陸支社長
125		牧 真奈美	(株)クルサー	代表取締役	150		山口 純平	山口郵便逓送(株)	取締役社長

地域創生委員会 委員 (4/4)

No.	委員会役職	氏 名	会 社 名	会 社 役 職
151		山口 貴之	YKK AP(株)	北陸支社長
152		山田 岩男	富山電気ビルデイング(株)	取締役社長
153		山田 恵子	山田工業(株)	取締役社長
154		山田 秀夫	(株)山田写真製版所	代表取締役会長
155		山田 仁史	日本海建興(株)	代表取締役社長
156		山野 昌道	(株)チューリップテレビ	取締役社長
157		山本 小恵	山本司法書士事務所	所長
158		吉川 大介	(株)三菱UFJ銀行	富山営業部長
159		吉澤 勉	(株)大和富山店	取締役店長
160		吉田 修一	みずほ証券(株)	富山支店長
161		吉田 直樹	日本海ガス(株)	常務取締役
162		吉田 登	北登精機(株)	代表取締役
163		若林 啓介	紙ぷらす(株)	取締役社長
164		若林 健嗣	日本海電業(株)	代表取締役
165		渡邉 琢磨	(株)宇奈月延対寺荘	取締役
166		渡辺 英俊	(株)読売新聞東京本社	北陸支社長
167	担当役員	池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店	代表取締役

富山経済同友会

〒930-0856

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階 tel. 076-444-0660 / fax. 076-444-0661 ホームページ https://www.doyukai.org/